

桂川慎一さん

1929(昭和4)年3月30日生まれ

当時の本籍地 岐阜県

鳳凰開拓団

満州国北安省南和村(現黒竜江省)



●1942(昭和17)年3月 一家で鳳凰開拓団に入植

竹原村(現下呂市の一部)は岐阜県で初の分村を満州北安省に作る事となり、1940年村会議員を団長に入植を開始した。

桂川さんは父母と8人兄弟で渡満し(慎一さんは第2子の長男)、向こうで一番下の坊やが生まれた。

祖母は寒い所は嫌だと名古屋の娘の所に行ったが、娘が結核で亡くなったため、1944年にあとから入植した。

開拓団は米は配給があり、鶏は各家で100羽近く飼って、やがて乳牛なども飼うようになり、食糧に困ることはなかった。

●1945(昭和20)年8月13日 最後の現地召集

父親をはじめ残っていた団員に召集が来て出かけたが、結局敗戦と言う事で帰された。

●同年8月15日 敗戦

敗戦は団長から聞いた。武器は家畜が野生動物に襲われるため持っていた。銃があり、機関銃も団に一つ、手榴弾も持っていた。武器を返すよう県からは何度も言ってきたが、武器は唯一の頼りで従わなかった。

●同年8月23日 若い男女2人が開拓団に逃げ込んで来た

この2人がソ連軍が女性を襲い暴力を振っている様子を伝えたので、皆死ぬ気になって仕舞った。

18歳だった姉はそんな事なら自決した方が良いと言っていた。

ソ連の戦車が数キロの集落まで来ていると中国人が言っていた。実際にはそんなに近くには来ていなかった。

私たち青年団の者は幹部たちの議論で発言できるわけもなく、主に監視塔に上がって見張りをしていた。

夜、いざと言う時には飲めるように赤いセロファンにモルヒネを包んで配られた。家族ごとに遺髪を集め、開拓団で日章旗を掲揚していたポールの下に置いた。

3番目の弟が警察の通信の勉強のため旅順に行っていた。母と祖母はこの子が1人残されるのは可哀相だから、私と父だけは何としても生き延びるように言って、リュックを作りそこに食料などを詰め込んでいた。父はI校長やほか数名と生き残り逃げる打ち合わせをしていたらしい。

姉が成田山のお守りにお守り袋を作ってくれて、首にかけてくれた。

●同年8月24日 集団自決が起こる

開拓団の土堀の外を現地の人たちが真っ黒に取り囲んでいた。

青少年団が集められ校長から「ソ連と戦闘になった時は自決用に最後の1発は残しておくように。銃口を喉にあてて足の指で引き金を引くので軍足の親指を切り抜いておくように」と指示された。

モルヒネを飲む時には団長の指示で私が半鐘を鳴らす事になっていた。監視塔の上にいると半鐘を早く鳴らせと下に集まって来る者もいたが、団長の指示は未だだからと頑張っていた。

ある人が自分の家の火鉢に手榴弾を投げ込み、火が出て藁ぶきの屋根に燃え移って仕舞った。

団長が自決を決意、合図の鐘が鳴らされモルヒネを飲み始めたが嘔吐するばかり。見かねて団員は次々に手榴弾を自分の家に放り込み、あちらでもこちらでも火の手が上がった。どの家も死にきれず飛び出してくる子供などがいたが、他の家の団員が殺した。

私の家でも他の団員が手榴弾を投げ込み、3男と4男が飛び出して仕舞ったらしい。私が見たときは家は激しく燃え上がり、家族の遺体は見えない。

家族の自決が終わっても団員の自決はすぐ起こらなかった。父と校長たちはこっそりと抜け出した。私は疲れから本部で眠り込んでいて、父は隣の濃飛開拓団まで行って私がいけないことに気づき、来るように電話をしてくれた。Yさんは激怒したが、団長は「桂川と一緒にいきたい者は行けば良い」と言い更に何人かが一緒に行くことになった。

●1か月ほどして開拓団の集落のあったところに戻る

あてもなく西へ向かったが途中で何度も中国人に襲撃され、これぐらいなら家族が死んだところで死のうと戻った。開拓団のあったところはすっかり焼け野原になっていた。けれど死にそこなった人間は結局死ねない。

開拓団の集落の前において関係の良かった中国人のリーダーが、「お前たちは家族を殺してしまうとは何をしているのだ。とにかく北安街に出ろ。中国人の恰好をすると良い」とアドバイスしてくれた。

●北安街に出てそこから列車で新京へ

父と菓子を売ったりして暮らした。居留民会が名簿を作り帰国を進めていった。

●1946(昭和21)年8月7日 白竜丸で博多に帰国

やがて開拓団から召集され、シベリア抑留をされた人たちが帰国してきた。何も知らず帰国したら家族が殺されていたのだから反目は激しかった。

●1977(昭和52)年8月 碑を旧竹原村

※鳳凰開拓団では敗戦時、大人の男性68名、女性60名、子供男性72名、女74名 計274名。60世帯。

鳳凰開拓団での自決死亡者 206名、濃飛開拓団での自決死亡者 9名、引き上げ中に病死 9名、

ソ連に抑留中に死亡 5名、行方不明 2名、引き上げ帰還者 48名

(取材日:2012年12月16日)